

教育委員会定例会議事録

平成29年10月20日 午後2時00分 開議

出席委員

教 育 長	高 本 訓 久
委 員	渡 辺 時 行
委 員	林 正 美
委 員	菅 沼 由 貴 子
委 員	戸 苺 恵 理 子

説明のための出席者

教育部長	関 原 秀 一
教育部次長兼庶務課長	鈴 木 敏 彰
教育部次長兼学校教育課長	今 泉 一 義
教育部次長兼中央図書館長	細 井 正 久
学校教育課主幹	三 浦 孝 裕
生涯学習課長	前 田 清 彦
スポーツ課長	小 島 基
学校給食課長	寺 部 優
中央図書館主幹	尾 崎 浩 司

教育長が指定した事務局職員

主 事	瀬 野 正 章
主 事	築 瀬 正 洋

議事日程

- 第1 議席の決定
- 第2 議事録署名委員の指名
- 第3 第25号議案 平成28年度教育委員会事務の点検・評価報告書について
- 第4 第26号議案 教職員の任用について（非公開）
- 第5 その他報告 平成29年9月定例会市議会における教育問題について

「高本教育長」 定刻になりましたので、ただ今から教育委員会を開会し、直ちに会議を開きます。始めに、日程第1「議席の決定」を行います。10月6日に菅沼委員の

教育委員再任がございましたので、教育委員会会議規則第5条「委員の議席は、教育長が定める。」との規定に基づきまして、改めて議席を指定させていただきます。議席につきましては、ただ今お座りの席を各委員の議席とさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

「高本教育長」 続きまして、日程第2「議事録署名委員の指名」を行います。本日の議事録署名委員は、教育長において、林・戸苅両委員を指名いたしますのでよろしくお願いいたします。

「高本教育長」 次に日程第3、第25号議案「平成28年度教育委員会事務の点検・評価報告書について」を議題といたします。それでは事務局から説明をお願いします。

「鈴木教育部次長」 別紙資料「平成28年度教育委員会事務の点検・評価報告書（概要）」に基づき、目的（法26条での義務）、点検・評価の対象（平成28年度事業）、主な事務の流れ（2回の教育行政事務点検評価委員会の開催）、学識経験者の紹介（3名）、報告書の構成（大きく6つの構成）、学識経験者による評価（4つの基本目標を実現する95施策に対し163件の意見。85シートに対する評価として「良好」が70件、「概ね良好」が15件、「要改善」が0件）について概要説明。

「各課長」 別紙資料「平成28年度教育委員会事務の点検・評価報告書」に沿って説明し、そのうち「Ⅲ 主要施策の自己点検及び学識経験者による評価」について以下の項目を説明。

【庶務課】

- (1) 老朽校舎などの計画的な整備（シートNo. 50）
各小中学校の施設状況を踏まえながら、計画的に整備を進めることが求められている。
- (2) 校務システムの導入による事務効率化（シートNo. 51）
校務負担を考慮し、システムが有効活用されるよう調整を図ることが求められている。
- (3) 学習環境の整備（シートNo. 52）
空調設備整備及びトイレ改修工事について、学校と協議しながら、授業に支障の無いように整備を進めることが求められている。

【学校教育課】

- (1) 心の教育推進活動（シートNo. 1）
地域と学校のふれあいの機会ともなっているため継続実施が求められている。
- (2) 朝の読書活動の実施（シートNo. 9）
巡回司書や読書ボランティア等による読み聞かせ活動など、継続した読書活動の推進が求められている。

(2) 学校からの情報発信（シートNo. 44）

緊急連絡メールシステムは緊急時の情報伝達手段として有効である。非常時に備え、日常時から積極的に利用することが求められている。

【生涯学習課】

(1) 家庭教育事業の推進・あらゆる機会における意識啓発の推進

（シートNo. 13）

「地域生涯学習講座」を充実させ、子育て支援にも寄与していくことが期待される。

(2) 文化財のネットワーク化の推進・文化財の公開活用（No. 19）

平和公園は平和学習に有意義な施設であるため、子どもの市内見学コースなどへの活用も期待されている。

(3) 子育て関係機関との連携（シートNo. 48）

悩みを抱える青少年の支援のため、子ども・若者支援地域協議会などを活用した関係機関の相互交流や連携強化が求められている。

(4) とよかわオープンカレッジの育成（シートNo. 66）

引き続き、市民の期待に応える講座の開講が求められている。

(5) 放課後子ども教室の展開（シートNo. 68）

「放課後子ども教室」では新しい講師の発掘や、魅力ある教室の開催が求められている。

【スポーツ課】

(1) 体育施設の整備・改修と活用（シートNo. 58）

各施設の状況把握に努め、必要な修理や修繕についての早期発見、早期対応が求められている。

(2) 体育施設における指定管理者制度の活用（シートNo. 59）

サービス向上や適切な施設維持管理に向けて、利用者や施設管理者との意見交換や情報共有に努めていただきたい。

(3) するスポーツの振興（シートNo. 77）

ニュースポーツの活用などにより、市民がスポーツに参加しやすい環境づくりを続けていくことが求められている。

(4) 支えるスポーツの振興（シートNo. 79）

スポーツ推進委員の養成など、将来を見据えた指導者育成の継続実施が求められている。

【学校給食課】

(1) 食に関する指導の充実（シートNo. 16）

児童生徒に適した質や量を考えながら、楽しい給食の時間を提供することが求められている。

(2) 学校給食施設の改修等整備（シートNo. 41）

整備の必要のある給食設備が安全に稼働できるように、必要に応じた予算措置を行い対応することが求められている。

(3) 学校給食アレルギー対応食調理事業（シートNo. 56）

安全な給食の提供のため、アレルギー対応についての研修や情報収集、情報共有に努めることが求められている。

【中央図書館】

(1) 電子書籍サービスの検討（シートNo. 81）

利用者が読書を楽しむことができるように蔵書数の増加を進めることが求められている。

(2) 子ども読書活動の推進（シートNo. 82）

子どもの読書活動を推進するため、引き続き工夫を続けていくことが求められている。

(3) ジオスペース館の活動（シートNo. 84）

身近に宇宙を感じることができる貴重な場所であるため、番組の選定に工夫をしながら、可能な限り修繕して活用を続けることが求められている。

「高本教育長」 幅広い内容ですが、ただ今の議案について、ご質疑がありましたらご発言ください。

「林委員」 全体に関する質問です。生涯学習課やスポーツ課の事業に多く見られますが、団体などに補助金を交付している場合、交付した補助金に対する成果をどのように確認していますか。

「前田生涯学習課長」 生涯学習課では、子ども会連絡協議会活動費補助、PTA連絡協議会活動費補助、子どもセンター活動費補助といたしまして、社会教育活動を支援するために補助金の交付を行っております。補助金の交付を受けた団体に対しては事業完了後に実績報告書の提出を義務付けており、その提出を受けて事業実績の確認を行っております。また、補助金がより効果的に活用されるように、補助金申請時や事業実施中にも、事務局が事業内容や状況を把握しつつ関係団体の役員や担当者にアドバイスをを行うなどの対応も実施しております。

「小島スポーツ課長」 スポーツ課では補助金を交付している事業が3つございます。1つ目は体育協会に対する補助金。2つ目は地域の体育振興会に対する補助金。3つ目は各種スポーツ大会に出場する個人もしくは学校等に交付するスポーツ振興事業補助金でございます。1つ目の体育協会への補助金につきましては、体育協会が実施するスポーツ少年団などの活動に事務局も参加しながらアドバイスをっており、さらに事業計画書や実績報告書からも内容や成果を充分に確認しております。2つ目の地域の体育振興会に対する補助金の成果でございますが、その最たるものは市民体育

大会への市民の参加という形で現れてきており、毎年2,500人以上の参加者を得ております。また、各小学校体育振興会によるスポーツ推進委員を通じたニュースポーツの普及も進んでおり、ニュースポーツ出前講座の参加者数は3,000人から4,000人以上となっています。こちらの補助金につきましては、スポーツ推進委員の活動内容の報告により実績確認をしております。3つ目のスポーツ振興事業補助金でございますが、こちらは小中学校の大きな大会やオリンピック出場などに対する費用負担の緩和を図るものでございます。すでに成果が出た方を支援するために交付するものでございます。

「林委員」 多くの県や市町村では補助金を削減する動きが目立っています。豊川市でもそのような動きがあるのでしょうか。

「関原教育部長」 補助金をはじめ市の財政においては、現在、行っている事業について必ずしも継続して予算化するというものではございません。林委員のおっしゃるとおり、効果等を検証しながら予算化を行うものでございます。補助金の予算計上にあたっては、交付する相手先や交付の目的、他市の状況などを精査しながら行っております。教育関係の補助事業については、関係団体から協働という意味で市が支えていただいている色合いが強いものであると捉えております。

「林委員」 成果が期待されるものについては、是非とも補助金を交付していただきたいと考えます。

「高本教育長」 他に、ご質疑がありましたらお願いします。

「渡辺委員」 10ページのシートNo. 5「臨床心理士などによる教育相談の充実」について、「予約が詰まっており、希望に対して相談日までに1ヶ月以上が経過してしまうケースも生じている。」との記載があります。こちらは平成28年度の取組に対する自己評価であると思いますが、その反省点に対して平成29年度以降、どのような対応を検討しているのか教えていただきたい。

「今泉教育部次長」 相談を受けている内容については、いじめ・不登校から、こころの問題、幼児の発達に関するものなど多岐にわたっており、件数としては年間に200件ほどずつ増加している状況です。それに対しまして、現在は相談の体制などについて検討しているところでございます。具体的に実施を始めている内容といたしましては、各学校を巡回しているスクールカウンセラーから、学校への巡回の際に、いじめへの効果的な初期対応について教職員などに指導を行っております。不登校は早期対応が重要であるため、早期対応についての研修会なども実施しております。さらに、いじめに対応するものとして、豊川市いじめ防止基本方針を定め、その対応や対策する組織などを明確化するなどいたしました。早期発見、早期対応及び問題解消のため

の方向性を示し、いじめを未然防止し、深刻化を防ぐことで相談件数の縮減をめざすものでございます。

「**渡辺委員**」 相談件数の縮減や根本的な解決に向けて動き始めているということについては理解しました。最近、いじめ問題に対する相談窓口の一つとしてSNSを活用している自治体があるという報道を耳にしました。小中学生は情報機器の扱いに慣れており、また、電話で話しをするよりも相談がしやすいということから、SNSを活用した相談窓口にはたくさんの相談が寄せられているという内容でした。国もそのような動きについて研究しているという話でしたが、このことについての豊川市の方針をお伺いしたい。

「**今泉教育部次長**」 教育相談業務についてのSNSの活用について、豊川市としてはまだ明確な方針を持っていない状況です。教育相談業務へのSNSの活用については長野県が取り組んでおり、大変多くの相談件数があったという報告は受けております。SNSによって相談を受ける場合、相手の顔が見えない事から適切な答えを導き出すことが出来ない可能性があるなど、相談を受ける側の体制の不十分さが想定されます。こういったことを踏まえながら、現在も長野県の情報を収集しております。その結果として、豊川市でもSNSを活用した相談体制を整えることが可能であると判断できれば、大変価値のある取組でございますので、是非、実施の検討を進めていきたいと考えております。

「**林委員**」 関連して発言してよろしいでしょうか。この報告書では相談件数の増加を評価しています。もちろん、多くの対応を実施したことは評価されるべきことではありますが、相談によって解決したというような成果については何か示すことが出来るものはありますか。

「**今泉教育部次長**」 林委員のご発言のとおり、解決が最終的な目的ではありますが、ここで相談を受けた方々が高校生や社会人に成長し、その後の進路などの追跡調査は十分にできていない状況です。将来的に、子どもから大人まで全ての相談を一箇所で行うことができるような施設や体制ができていけば、より多くのことが分かってくるのかもしれませんが。

「**林委員**」 これだけ相談窓口が増えて充実してきたのにも関わらず、不登校が減っていかない。いじめも無くならない。スクールカウンセラーが導入された時、これで不登校がかなり減るのではないかと、国も我々も期待したのですが、実際はそれ程、目に見えた成果が挙がっていない状況です。難しいかも知れませんが、もう少し長期間に渡っての観察、指導、アドバイスや支援の体制ができていくと何か分かってくるの

かも知れませんね。

「高本教育長」 質問させていただきます。心理教育相談として継続した相談を行う場合は同じ臨床心理士が対応していただくということでしょうか。

「今泉教育部次長」 初めての相談についてはスケジュールの空きに伴って対応者が決定されます。その後、ほとんどの方は引き続き同じ臨床心理士が相談対応することとなりますが、保護者から女性の臨床心理士を希望される場合や、相談窓口の場所の希望などによって替わる場合もあります。

「高本教育長」 関連してでも結構です。何かご意見などはございますか。

「菅沼委員」 95ページのシートNo. 73の学校給食献立コンクールについてお伺いします。コンクールへの応募者数が今年は少なかったとの話を伺いました。給食に対して興味を持っていただくには大変良い事業であると思いますので周知を進めていただきたい。

「寺部学校給食課長」 応募作品数でございますが、平成28年度の529点に対しまして、平成29年度は205点とかなり減ってしまいました。年によって差が出てしまうのは仕方が無いことですが、500点から700点くらいを目標として来年度は栄養教諭を中心に多くの場所で周知に努めたいと考えております。

「渡辺委員」 18ページ、シートNo. 11について質問です。「うち読」事業に対する自己評価の記載について、「一部の学校において協力を得ることができた。」という表現がなされていますが、裏を返すと、これは教育委員会の施策に対して理解が得られていない学校があるということでしょうか。

「尾崎中央図書館主幹」 学校の朝の時間を何の活動に割くかということは、学校が状況に応じて判断を行います。もちろんどこの学校でも読書の重要性について浸透してはいるのですが、読書を優先させることができる学校もあれば、基礎学習的な部分に時間を割く学校もあります。今回の表記につきましては、読書を優先させている学校では、その時間の一部を使って図書主任から「うち読」の推進について紹介をする機会が得られたということをごをこのように表現させていただいたものでございます。事業に対する理解が得られていない学校があるというわけではありません。

「高本教育長」 関連していなくても結構です。何かご意見はございますか。

「林委員」 今の「うち読」の件や、24ページ、シートNo. 17の「異年齢との交流活動」などは学校教育課が主管課となっていますが、その進捗は学校の状況にある程度任せているものと理解しています。学校の事情によって推し進めていけない事がある事業などは教育委員会の施策として掲げて行くべきものなのではないでしょうか。一度ご

検討いただきたいと思いご意見させていただきました。

「高本教育長」 他に何かご意見はございますか。

「戸荊委員」 7ページ、シートNo. 2について意見させていただきます。野外活動の自己評価について、「怪我や病気などによる救急体制の不便さは感じられる。」という記載があります。「きららの里」から足助病院まで行くにはどのくらいの時間がかかるのでしょうか。

「今泉教育部次長」 40分くらいかかるのではないのでしょうか。

「高本教育長」 東栄病院はもっと遠いですね。

「林委員」 大きな怪我をした場合、ドクターヘリでの対応はあるのでしょうか。

「今泉教育部次長」 キャンプファイヤー場のところが昔の運動場ですので、降りるスペースは充分にあると思います。

「小島スポーツ課長」 ドクターヘリについては長久手の愛知医大から飛んで来ますので、搬送先は愛知医大にそのまま行く場合もあれば、三河の方では岡崎や豊橋市民病院もあるようです。

「戸荊委員」 ドクターヘリの使用については消防署が判断するのもかもしれませんが、やはり、学校で野外活動に利用するときなどは、引率の先生方にそういう対応もあるものとして認識を持っていただくようお願いしたいですね。

「高本教育長」 他に何かご意見などはございますか。

「林委員」 15ページのシートNo. 8、「マイブックプロジェクト」の推進事業について質問です。このシートについて、自己評価と点検評価委員の評価に差があるように見受けられます。自己評価は「期待を上回る成果を上げた」とありますが、点検評価委員の評価は「概ね良好」となっております。私としては大変良い事業であり評価をしたいと考えているわけですが、点検評価委員はどのような思いをもって評価をしたのか、ご存知でしたら教えていただきたい。

「鈴木教育部次長」 点検評価委員の評価については複数の方から評価をいただいております。このマイブックプロジェクト事業の実施についてはどの委員からも高い評価をいただいております。大変有意義な事業であるという期待の中で、購入冊数や対象者の拡大がなかったということもあり「概ね良好」という外部評価に落ち着いたものでございます。しかし、担当課としましては大変苦勞のある事業でありながら、何とか実施を続けており、事業実施後のアンケートからも常々高い評価を頂いているという実績も踏まえ「期待を上回る成果を上げた」と自己評価しているものでございます。

「菅沼委員」 点検評価委員の評価については今後の期待が込められているのかも知れ

ませんね。

「高本教育長」 中央図書館から何か意見はありますか。

「尾崎中央図書館主幹」 平成28年度は前年度と比較して参加率を2%増加させることができましたので自己評価に反映させていただきました。しかし、のびしろはまだあると思いますので工夫をしていきたいと考えています。学校を通じて実施する事業ですので、さらに100%に近づけたいという思いもあります。

「菅沼委員」 学校によって参加率に多少の差はありますよね。

「尾崎中央図書館主幹」 年によっても変動しています。

「菅沼委員」 過去の傾向から参加率の低い学校は特定できますか。

「尾崎中央図書館主幹」 過去のアンケート調査を分析してはいるのですが、変動があり傾向が一定していません。

「菅沼委員」 そうなると単純な対応は難しいかもしれませんね。

「尾崎中央図書館主幹」 自己評価を付けるにあたって、アンケート調査の中で非常に良いコメントが目付いたものですから、のびしろはあるにしろ、少し高めに評価させていただきました。

「高本教育長」 他にご発言はございますか。よろしいでしょうか。無ければ採決を行います。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声)

「高本教育長」 異議なしと認め、日程第3、第25号議案「平成28年度教育委員会事務の点検・評価報告書について」は、原案のとおり可決されました。

「高本教育長」 続きまして、日程第4、第26号議案「教職員の任用について」を議題といたします。なお、本案は、職員の人事に関する案件ですので、議事を非公開とし、会議内容の議事を別に記録することとよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

「高本教育長」 異議なしと認め、本案は非公開とします。それでは、事務局から説明をお願いします。

「今泉教育部次長」 第23号議案「教職員の任用について」を資料に基づいて説明。

(以下、議事内容は個人情報に関わるため議事を非公開)

「高本教育長」 続きまして、日程第5、その他報告「平成29年9月定例市議会における教育問題について」を議題といたします。事務局からの説明をお願いします。

「関原教育部長」 「平成29年9月定例市議会における教育問題について」を資料に基づいて説明。

「高本教育長」 ただ今の説明について、ご質疑がありましたらお願いします。

「林委員」 12ページ以降のスポーツ振興について質問です。豊川市では豊川高校など駅伝が強いというイメージがありますが、特定の種目に偏らずスポーツ全体を振興していくという方向性を持って進めているということでしょうか。

「関原教育部長」 豊川市では交通規制の問題などもあり、大きな駅伝大会を招致することが難しいという事情があります。豊川工業高校や豊川高校の大活躍もありますので、豊川リレーマラソンとトヨカワシティマラソンの充実も行いながら、併せて、幅広いスポーツの盛んなまちづくりを進めていきたいと考えております。

「林委員」 よくわかりました。

「高本教育長」 駅伝に限らず、いろんな種目、スポーツで豊川の子ども達が頑張っているものですから、スポーツの盛んなまちとして振興していくことは大変良い方向であると思います。他に何かご質問などはございますか。

「渡辺委員」 20ページに、小中学校の適正規模・適正配置についての質問があります。一般的には人口減少に伴い、子ども達の数も減る方向にあると思いますが、複式学級となる基準について教えていただきたい。

「今泉教育部次長」 1・2年生と3年生以上で若干基準が違うのですが、一般的には連続する2学年合計で14人以下が2年以上継続する場合が対象となります。

「鈴木教育部次長」 人口動向については、0歳児の数を見ることで、6年後の新入学児童数はおおよその見込みがつかますので、将来的に複式学級となる事が考えられる状況となった場合には、地域に対してアプローチしていく必要も出てくるかと考えております。そういった場合に対応するための手順を検討することも考えております。

「高本教育長」 他にご意見などはございますか。

「菅沼委員」 39ページの放課後子ども教室について質問です。放課後子ども教室の位置付けとはどのようなものでしょうか。

「前田生涯学習課長」 様々な時代の変遷を受けて少しずつその位置付けを変えながら現在に至っております。現在では、土曜日に子どもを受け入れる学びの場として、また、放課後の子どもの居場所作りというニーズに対応するものでございます。

「菅沼委員」 放課後子ども教室の参加登録数について、子ども達がたくさんいる学校区にもかかわらず登録者数が少ない地域もあります。指導員にもいろいろな得意分野があるとは思いますが、子ども達のニーズを捉えながら、魅力ある教室となるように実施内容を模索して参加者数の増加を促していただきたい。

「前田生涯学習課長」 子ども達のニーズを踏まえて、魅力ある教室を実施していくということは大きな課題であると捉えております。そのために社会教育審議会の委員か

ら提言をいただけるように、本年度から来年度にかけて現地視察を実施しております。既にいただいている声としては、放課後子ども教室の実施日が一斉下校のある木曜日である地域が多いため、人気のある教室の講師が取り合いになってしまっているということです。つまり、幅広く講師の掘り起こしを行う必要があるということです。そのため、生涯学習課ではオープンカレッジの支援を通じ講師の育成を行っており、さらに、企業連携により新たな講師を生み出すことなども模索しております。福祉課の学習支援など他部署との情報交換も重要であると考えております。今後、社会教育委員からの提言を受けて、成果が出るまではまだ数年かかるかもしれませんが、対応してまいります。

「菅沼委員」 様々な校区で実施しているものであるため、講師の掘り起こしも含め、連携しながら進めていただきたい。

「前田生涯学習課長」 ありがとうございます。

「高本教育長」 社会教育審議会の委員は熱心な方が多いので期待したいと思います。

他にご意見やご質問がございましたらご発言ください。よろしいでしょうか。それでは、日程第5、その他報告「平成29年9月定例会市議会における教育問題について」の報告を終了させていただきます。

本日の会議に付議されました案件は以上でございますので、これで本委員会を閉会します。ありがとうございました。

(午後4時18分 閉会)